

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第50週 (12月11～17日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	268	14098
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢	1	45
腸管出血性大腸菌感染症	40	3736
腸チフス		37
パラチフス		9
[4類]		
E型肝炎	11	523
A型肝炎	2	52
エキノкокクス症		13
エムボックス ¹⁾	2	224
オウム病		8
回帰熱	1	23
コクシジオイデス症		4
ジカウイルス感染症	1	2
重症熱性血小板減少症候群		131
チクングニア熱		7
つつが虫病	34	390
デング熱	1	167
日本紅斑熱		502
日本脳炎		6
ブルセラ症		2
マラリア	1	35
ライム病		29
レジオネラ症	35	2200
レプトスピラ症		49
[5類]		
アメーバ赤痢	10	468
ウイルス性肝炎 ²⁾	3	232
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	28	2022
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		53
急性脳炎 ⁵⁾	12	601
クリプトスポリジウム症		12
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	157
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23	874
後天性免疫不全症候群	16	898
ジアルジア症	1	37
侵襲性インフルエンザ菌感染症	11	529
侵襲性髄膜炎菌感染症	3	20
侵襲性肺炎球菌感染症	45	1824
水痘(入院例に限る)	5	386
梅毒	207	14401
播種性クリプトкокクス症	6	166
破傷風	1	103
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	116
百日咳	19	974
風しん	1	12
麻疹	1	28
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	15

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	147858	29.94
新型コロナウイルス感染症	20511	4.15
RSウイルス感染症	201	0.06
咽頭結膜熱	10966	3.49
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15818	5.04
感染性胃腸炎	20348	6.48
水痘	559	0.18
手足口病	1406	0.45
伝染性紅斑	45	0.01
突発性発しん	652	0.21
ヘルパンギーナ	162	0.05
流行性耳下腺炎	107	0.03
急性出血性結膜炎	12	0.02
流行性角結膜炎	679	0.98
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	14	0.03
無菌性髄膜炎	18	0.04
マイコプラズマ肺炎	32	0.07
クラミジア肺炎 ⁸⁾	1	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ⁹⁾	8	0.02
インフルエンザ(入院患者)	1322	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1320	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	大分、宮崎、宮城
新型コロナウイルス感染症	↑	山梨、北海道、長野
RSウイルス感染症	↑	島根、北海道、長野
咽頭結膜熱	➡	福井、北海道、佐賀
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	鳥取、富山、千葉
感染性胃腸炎	↑	大分、香川、東京
手足口病	↓	宮崎、鹿児島、愛媛
伝染性紅斑	↑	東京、石川、岩手、香川
ヘルパンギーナ	↓	富山、香川、鹿児島
流行性耳下腺炎	↑	沖縄、福島、鹿児島、富山
マイコプラズマ肺炎	↓	福井、京都、石川、岐阜

◆5類感染症(定点当たり報告数)

インフルエンザの定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第47週以降増加が続いている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は横ばいであったが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。